



教育等の振興に関する施策の大綱(案)

【概要】



平成28年 1月
高知県



11月1日は高知県教育の日「志・とさ学びの日」です

基本理念（目指すべき人間像）とその実現に向けた取組の基本目標

学ぶ意欲にあふれ、心豊かでたくましく夢に向かって羽ばたく子どもたち

- 知** 基礎的・基本的な知識・技能、これらを活用して課題を解決するための思考力・判断力・表現力、生涯にわたって学び続ける意欲
- 徳** 社会の中で多様な人々と互いに尊重し合い、協働し、社会に参画しながら人としてよりよく生きていく基礎となる他者への思いやりや規範意識、公共の精神などの豊かな人間性・道徳性
- 体** 生涯にわたってたくましく生き抜いていくための体力や健康的な生活習慣
- **知・徳・体の調和がとれた、自らの人生を切り拓き主体的に生きる力を、家庭の保護者や地域、学校、市町村教育委員会、県教育委員会などが、それぞれの役割や責任を意識しながら力を合わせ、社会全体で子どもたちに身に付けさせる必要**

郷土への愛着と誇りを持ち、高い志を掲げ、日本や高知の未来を切り拓く人材

- 我が国では、先の見えない変化の激しい時代の中で、課題に挑戦し、未来を切り拓く人材が求められている
- 特に少子・高齢化が著しい本県が今後も活力を維持・向上していくためには、**郷土への愛着と誇りを大切にしながら、グローバルな視点を持ち、高い志を掲げ、産業・経済や地域福祉、さらには、文化、コミュニティなど多くの分野で地域の将来を担う人材が求められる**

取組の状況を測る
基本目標を設定

5つの

取組の
方向性

- ①チーム学校の構築
- ②厳しい環境にある子どもたちへの支援
- ③地域との連携・協働
- ④就学前教育の充実
- ⑤生涯学び続ける環境づくり

と10の

施策の
基本方向

で基本理念の実現を目指す

※ 取組の方向性と施策の基本方向との関係性は次ページ参照

知

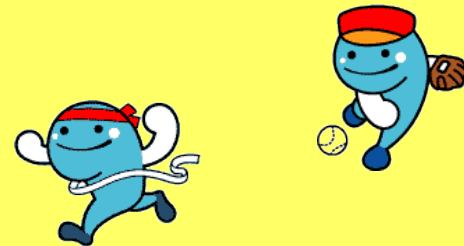
- 【小・中学校】
- 小学校の学力は全国上位を維持し、中学校の学力は全国平均以上に引き上げる
※H27全国学力・学習状況調査結果（全国平均との差）
小：国A +3.4 国B +1.6 算A +1.8 算B -0.4
中：国A -2.5 国B -2.9 数A -4.5 数B -5.4
 - 【高等学校】
 - 高校3年生の4月の学力定着把握検査におけるD3層の生徒の割合を15%以下に引き下げる
※H27学力定着把握検査結果（高3年4月）：30.4%
 - 高等学校卒業者のうち進路未定で卒業する生徒の割合を3%以下にする
※H26年度卒業生に占める進路未定者の割合：8.0%

徳

- 生徒指導上の諸問題の状況を全国平均まで改善する
※H26児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査結果
・暴力行為発件数（千人当たり）：8.2件（全国4.0件）
・不登校児童生徒数（千人当たり）
小中15.5件（全国12.1件） 高校18.7件（全国15.9件）
・中途退学率：2.1%（全国1.5%）
- 児童生徒の道徳性意識調査結果で、全国平均を3ポイント以上上回る
※H27全国学力・学習状況調査結果（肯定的回答の割合（ ）は全国との差）
「自分には、よいところがあると思う」
小：77.3（+0.9） 中：69.4（+1.3）
「将来の夢や目標を持っている」
小：86.1（-0.4） 中：73.1（+1.4）
「学校のきまりを守っている」
小：91.2（+0.1） 中：93.8（-0.6） など

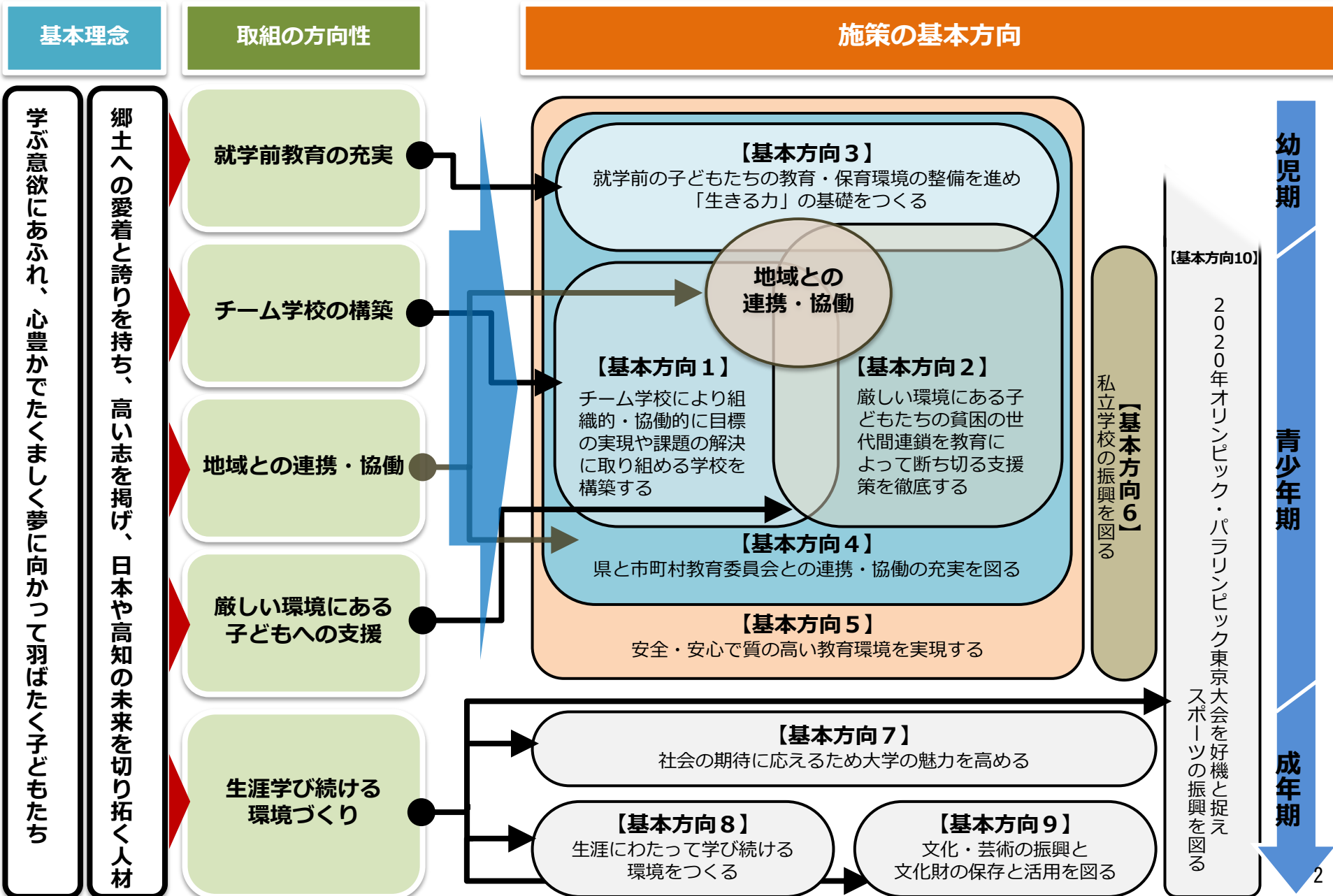
体

- 小学校の体力・運動能力は全国上位に、中学校の体力・運動能力は全国平均以上に引き上げる
※H27全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果
（数値はT得点(全国平均=50)）
小学校：男子50.1 女子50.4
中学校：男子49.8 女子48.4



基本目標

基本理念（育成すべき人間像）の実現に向けた取組の方向性・施策の基本方向【体系図】



	課 題	対 策
知 徳 体 共通の 課題・対策	各学校において育成すべき力が明確化・共有化されておらず、育成すべき力を実現するための取組も教員の個業に任せられ組織化が十分でない	1- (1) 学校の組織マネジメント力を強化する仕組みの構築 ① P D C A サイクルによる学校経営計画のさらなる充実・取組の徹底 ② 全教職員が学校の目標や課題を共有し、方向性を合わせて取組を行う仕組みの構築 ③ 組織のミドルリーダーの役割を担う主幹教諭の配置拡充 ④ 学校組織マネジメントを中核に据えた管理職等研修のさらなる充実
	学校を取り巻く課題は複雑化・困難化しており、育成すべき力を身に付けさせるためには学校内の資源だけでは十分でない	1- (2) 地域との連携・協働の推進 ① 学校支援地域本部の設置促進・活動の充実 ② 放課後児童クラブや放課後子ども教室の設置促進・活動の充実 1- (3) 外部・専門人材の活用の拡充 ① 学習支援員の配置拡充 ② スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーの配置拡充 ③ 教育支援センターへのスクールカウンセラー配置によるアウトリーチ型の支援活動体制の整備 ④ 運動部活動支援員の配置拡充
	発達障害等特別な支援が必要な児童生徒が増加しており、障害の状態等に応じた適切な指導を行うための教員の専門性や組織的な指導・支援が十分でない	1- (4) 障害の状態や教育的ニーズに応じた指導・支援の充実 ① ユニバーサルデザインに基づく授業づくりの推進 ② 引き継ぎシートなどを活用した校種間の引き継ぎの充実・強化 ③ 個別の指導計画に基づく学校内での組織的な指導・支援の継続的な実施
知 課題・対策	中学校の学力が全国と比べて低く、特に数学に課題がある 小・中学校ともに思考力・判断力・表現力に弱さがみられる	2- (1) 学力向上に向けて教員同士が学び合う仕組みの構築 ① 「タテ持ち」の導入、教科会の活性化 ② 授業力の向上等の組織的な指導体制の中核となる主幹教諭の配置拡充 ③ 授業改善プランの作成と実践 2- (2) 教員の教科指導力を向上させる仕組みの構築 ① 数学等の若手教員の集中研修や教科の中核教員の育成などのOff-JTの充実・強化 ② OJTの充実に向けた研究主任対象の協議会の実施、授業改善プランに基づく教員への指導・助言 ③ 全小・中学校における授業のスタンダードの徹底 ④ 探究的な学習の研究・実践の推進及び指導力向上に向けた研修の強化 ⑤ 中山間地域等の近隣の小規模校同士の連携による授業研究等の推進 ⑥ 数学担当指導主事の配置拡充、数学担当教員への訪問指導・支援の強化 ⑦ 授業公開のさらなる推進 2- (3) 児童生徒の学習の質・量の充実 ① 授業や家庭学習における単元テスト・学習シート等の教材の活用の徹底 ② 数学の思考力を養う問題集、算数・数学のコンテストの過去問題集等の活用の推進 ③ 家庭学習の計画づくりと進捗管理等を行う主幹教諭の配置拡充 2- (4) 児童生徒の学習意欲を高めるための機会の確保 ① 地域と連携したキャリア教育の推進 ② 読書活動の充実 ③ 学ぶ意欲を高めるコンテストの開催

	課 題	対 策
<p style="text-align: center;">徳</p> <p>課題・対策</p>	<p>暴力行為・非行が多く、特に近年は低年齢化が進んでいる</p> <p>不登校の児童生徒が多く、特に中学1年生で発生が著しく増加している</p> <p>依然としていじめが発生している</p>	<p>3- (1) 規範意識や自尊感情を育む組織的な取組の推進</p> <p>① 道徳教育の教科化に向けた取組の推進（リーダー教員の育成、指導・評価方法の研究等）</p> <p>② 配慮が必要な児童生徒への支援をつなぐ小・中学校合同の支援会議等の実施</p> <p>③ 人権教育の推進</p> <p>3- (2) 生徒指導上の諸問題の未然防止のための仕組みの構築</p> <p>① 児童生徒の情報共有や支援の引き継ぎに向けた小・中学校間の連携の強化</p> <p>② 中1ギャップの解消に向けた集団づくりの推進、生活・学習方法に関するガイダンスの実施</p> <p>③ いじめ防止に向けた児童生徒の主体的な取組の推進（児童会・生徒会の交流集会の開催）</p> <p>3- (3) 生徒指導上の諸問題の早期発見・早期解決のための仕組みの構築</p> <p>① 家庭訪問等、欠席した児童生徒への迅速な対応の徹底</p> <p>② スクールカウンセラー等による児童生徒理解研修の実施、支援シートを活用した個別支援の徹底</p> <p>③ 支援が必要な児童生徒への校内支援会による組織的対応の強化</p> <p>④ いじめ防止等の対策のための組織への情報の集約・共有化による組織的な対応の徹底</p>
<p style="text-align: center;">体</p> <p>課題・対策</p>	<p>運動習慣が十分に定着していない</p> <p>中学校の体力・運動能力が全国平均を下回っており、特に女子は、全国的にまだ低い水準にある</p> <p>痩身と肥満の傾向がみられる</p> <p>運動部活動では、生徒の能力・適性、興味・関心に応じた指導が十分に行われていない</p> <p>中山間地域における運動部活動では、競技種目が限定される場合がある</p>	<p>4- (1) 体育授業の改善</p> <p>① 小学校における体育授業の質の向上に向けた副読本や動画等の教材の充実・活用の徹底</p> <p>② 中学校1年生の体力向上対策の実施</p> <p>③ 体育学習の評価に関する基準作り、教員同士が日常的に授業の質を高め合う仕組みづくり</p> <p>④ 近隣の小規模校同士や小・中学校の連携による授業研究等の推進</p> <p>⑤ 退職校長等の派遣による体力・健康に課題がある学校への支援の充実</p> <p>⑥ 中学校の保健体育推進校による先進的な取組の推進と全校への成果の普及</p> <p>4- (2) 健康教育の充実</p> <p>① 教職員全体で取り組む健康教育の実施に向けた中核教員対象の研修の実施</p> <p>② 健康教育の副読本の活用の徹底</p> <p>③ 退職校長等の派遣による体力・健康に課題がある学校への支援の充実</p> <p>4- (3) 運動部活動の充実</p> <p>① 技術・戦略指導やコンディショニング管理など専門的な指導ができる運動部活動支援員の派遣拡充</p> <p>② コーチに必要な資質・能力のための研修の実施</p> <p>③ 県外の優秀な指導者を招へいする取組の拡充</p> <p>④ 中山間対策や指導者の資質向上等の課題解決に向けた研究及び対策の実施</p>

	課 題	対 策
<p>知 徳 体</p> <p>共通の 課題・対策</p>	<p>各学校において多様な学力や進路希望、障害の状況に対応した育成すべき力が明確化・共有化されておらず、育成すべき力を実現するための取組も教員の個業に任せられ組織化が十分でない</p> <p>学校を取り巻く課題は複雑化・困難化しており、育成すべき力を身に付けさせるためには学校内の資源だけでは十分でない</p>	<p>1- (1) 学校の組織マネジメント力を強化する仕組みの構築</p> <p>①学校経営計画の充実、P D C Aサイクルによる組織的な取組の推進 ②学校経営計画へのシンプルなビジョン・数値目標の設定 ③主幹教諭の配置拡充、各学校の課題に応じた校務分掌の組織づくり、外部人材を活用した校内支援体制の充実 ④学校組織マネジメントを中核に据えた管理職等研修のさらなる充実</p> <p>1- (2) 大学や企業との連携・協働の推進</p> <p>①大学や企業との連携・協働によるキャリア教育の推進 ②地域や大学との連携による探究型学習の充実</p> <p>1- (3) 外部・専門人材の活用の拡充</p> <p>①学習支援員の配置拡充 ②スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーの配置拡充 ③運動部活動支援員の配置拡充</p>
<p>知</p> <p>課題・対策</p>	<p>義務教育段階の学力が定着していない生徒が多い</p> <p>多様な学力と進路希望への対応が十分でない</p> <p>思考力・判断力・表現力に弱さがみられる</p> <p>障害の重度・重複化等が進み、教育的ニーズが多様化している《特別支援学校》</p>	<p>2- (1) 義務教育段階の学力の定着に向けた組織的な取組の充実</p> <p>①習熟度別授業における学び直しの継続的指導、学び直しのための科目の教育課程への位置付け ②教科会や校内研修の活性化による組織的な教科指導ができる仕組みの構築 ③学習支援員の配置による放課後の補力補習等の充実、つなぎ教材の活用促進 ④家庭学習の定着に向けたインターネットツールの活用の推進</p> <p>2- (2) 多様な学力・進路希望に対応した組織的な指導の充実</p> <p>①希望の職業につなげるための資格取得への支援 ②大学での授業体験や進学合宿、企業でのインターンシップ、ビジネスマナーの習得などの推進 ③ホーム主任全員を対象としたカウンセリング・マインド研修の実施、教員と生徒が双方向でやり取りできるノートの全校への普及・活用 ④教員の教科指導力向上のための県外講師による授業研修の強化 ⑤家庭学習の定着に向けたインターネットツールの活用の推進【再掲】 ⑥I C Tを活用した効果的な遠隔教育システムの構築・導入</p> <p>2- (3) 思考力・判断力・表現力の育成に向けた組織的な取組の推進</p> <p>①アクティブ・ラーニングを県内全域で展開するための教育センター研修の充実 ②地域や大学の連携による探究的な学習活動の充実 ③地域や大学との連携による学習成果や意見等を発表・交流できる機会の充実 ④グローバル教育の推進校におけるグローバル教育・英語教育プログラムの開発・実践と県内への普及、国際バカロレア認定に向けた取組の推進</p> <p>2- (4) 特別支援学校における多様な教育的ニーズへの対応の充実</p> <p>①特別支援学校教諭免許保有率の向上に向けた取組の徹底 ②特別支援学校のセンター的機能の充実・強化に向けた理学療法士や言語聴覚士等の専門家の活用 ③キャリア教育の充実（福祉・労働機関と連携した就労支援の充実、技能検定の実施） ④授業におけるタブレット端末等ICT機器の積極的な活用</p>

	課 題	対 策
<p style="text-align: center;">徳</p> <p>課題・対策</p>	<p>不登校、中途退学、早期離職が多く、特に不登校は中学校からの継続率が高い</p> <p>依然としていじめが発生している</p> <p>目的（目標）を持っていない生徒が多い</p> <p>社会性が身に付いていない生徒が多い</p> <p>自ら積極的に地域や社会と関わる意欲や機会が少ない《特別支援学校》</p>	<p>3- (1) 規範意識や自尊感情を育む組織的な取組の推進</p> <p>①人権教育の推進</p> <p>②教員と生徒が双方向でやり取りできるノートの活用の推進</p> <p>3- (2) 生徒指導上の諸問題の未然防止のための仕組みの構築</p> <p>①発達障害等のある生徒の中・高等学校間での指導・支援の引き継ぎの徹底</p> <p>②入学当初の合宿の実施等による学級集団づくり、生活・学習方法に関するオリエンテーションの実施</p> <p>③いじめ防止に向けた児童生徒の主体的な取組の推進（児童会・生徒会の交流集会の開催）【再掲】</p> <p>3- (3) 生徒指導上の諸問題の早期発見・早期解決のための仕組みの構築</p> <p>①支援が必要な生徒への校内支援委員会による個別の指導計画に基づく支援の充実</p> <p>②いじめ防止等の対策のための組織への情報の集約・共有化による組織的な対応の徹底</p> <p>3- (4) 目的意識の醸成や社会性の育成に向けた組織的な取組の充実</p> <p>①大学や企業との連携・協働によるキャリア教育の推進 【再掲】</p> <p>②ソーシャルスキルトレーニングなどのキャリア教育の充実</p> <p>③社会人として必要な基礎力の育成、資格取得への支援、ビジネスマナー講座の実施</p> <p>3- (5) 社会参加に向けた意欲の醸成や社会性を育む組織的な取組の充実《特別支援学校》</p> <p>①共生社会の実現に向けた学校間の交流及び居住地校交流の積極的な推進</p>
<p style="text-align: center;">体</p> <p>課題・対策</p>	<p>小・中学生に比べて高校生の運動・スポーツの実施頻度や1日の実施時間が少ない</p> <p>高等学校・特別支援学校では、将来の多様なスポーツライフにつなげる取組が十分に行われていない</p> <p>ネット依存等により、健康的な生活習慣が十分に定着していない</p> <p>運動部活動では、生徒の能力・適性、興味・関心に応じた指導が十分に行われていない</p>	<p>4- (1) 体育授業の改善</p> <p>①地域スポーツ活動の実情への理解を深める教材の作成・活用の推進</p> <p>②体育学習の評価に関する基準作り、教員同士が日常的に授業の質を高め合う仕組みづくり【再掲】</p> <p>③地域スポーツやオリンピック・パラリンピックの理解促進に向けた取組の推進</p> <p>4- (2) 健康教育の充実</p> <p>①教職員全体で取り組む健康教育の実施に向けた中核教員対象の研修の実施</p> <p>②健康管理と将来親になるための理解を深める副読本の活用の徹底</p> <p>4- (3) 運動部活動の充実</p> <p>①技術・戦略指導やコンディション管理など専門的な指導ができる運動部活動支援員の派遣拡充【再掲】</p> <p>②コーチに必要な資質・能力のための研修の実施【再掲】</p> <p>③県外の優秀な指導者を招へいする取組の拡充【再掲】</p> <p>④中山間対策や指導者の資質向上等の課題解決に向けた研究及び対策の実施【再掲】</p>

	課 題	対 策
知 徳 体 共通の 課題・対策	家庭の教育力の弱さが子どもたちの知・徳・体の育成に影響している	1- (1) 保護者に対する啓発の強化 ①保育所・幼稚園等における加配保育士等による個別支援の充実、行事への参加を促す取組の推進 ②PTA活動の活性化により保護者の参画を促進するための取組への支援 ③家庭教育用の学習教材の活用促進、身近な地域で保護者を支え合う関係づくり 1- (2) 学校や地域の力による家庭の教育力の補完 ※知・徳・体のそれぞれの対策に記載
	家庭の厳しい経済状況を背景に高校進学や就学の継続が難しい子どもがいる	1- (3) 保護者の経済的負担の軽減 ①小・中学校における就学援助の実施、放課後児童クラブ等の開設時間延長・就学援助世帯等の子どもの利用料減免への財政支援 ②高等学校等就学支援金・高校生等奨学給付金の支給、高等学校等奨学金の貸与 ③第3子以降3歳未満児の保育料の無料化（軽減）
	高校中途退学等により社会的自立に困難な事情を抱える若者がいる	1- (4) 高校中途退学者等の就学・就労に向けた支援の充実・強化 ①若者サポートステーションによる支援の強化、出張相談や家庭訪問等のアウトリーチ型支援の拡充
	スマートフォン等の不適正な利用が子どもたちの知・徳・体の育成に悪影響を与えている	1- (5) ネット問題に対する県民運動の推進 ①スマートフォン等の適正利用に向けた学校・家庭・地域でのルールづくりの促進 ②スマートフォン等の適正利用に関する保護者への啓発の強化
	家庭の教育力の弱さが子どもの学力に影響している 学習できる環境にない家庭が多く、家庭学習の時間が十分に確保されていない	2- (1) 放課後等における学習の場の充実 ①小・中学校における放課後等学習支援員の配置拡充、授業から放課後まで一貫した支援を行う学習支援員の配置拡充 ②高等学校における学習支援員の配置拡充 ③放課後児童クラブや放課後子ども教室における学習支援の充実 ④教材等の購入への支援 2- (2) 厳しい環境にある子どもの学びの場へのいざない ①子どもたちの登校や放課後学習への参加を促進するためのスクールソーシャルワーカーの配置拡充

	課 題	対 策
<p style="text-align: center;">徳</p> <p>課題・対策</p>	<p>規範意識を育むための家庭でのしつけが十分でない</p> <p>自尊感情を育むための家族のふれあいが十分でない</p> <p>豊かな感性を育むための体験活動の機会が十分でない</p>	<p>3- (1) 地域全体で子どもを見守る体制づくり</p> <p>①学校支援地域本部による多様な体験活動の充実、登下校や交通安全指導等の見守り活動の充実 ②放課後児童クラブ・放課後子ども教室の設置促進による放課後の安全・安心な居場所づくり ③児童虐待やいじめ等への地域の見守り機能を強化するための福祉関係機関との連携の促進</p> <p>3- (2) 専門人材、専門機関との連携強化</p> <p>①スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの配置拡充 ②心の教育センターにおけるワンストップ&トータルな相談支援体制の構築 ③心の教育センターと各種相談窓口や児童・青少年支援機関との連携強化による課題の解決に向けた取組の推進 ④要保護児童対策地域協議会と県教育委員会の連携強化 ⑤「高知家の子ども見守りプラン」に基づく非行防止対策の推進</p>
<p style="text-align: center;">体</p> <p>課題・対策</p>	<p>家庭における運動やスポーツを行う機会が十分でない</p> <p>基本的な生活習慣が十分身に付いていない</p> <p>欠食がみられる子どもたちがいる</p>	<p>4- (1) 運動・スポーツの機会の提供</p> <p>①日常的な運動・スポーツ機会の拡大（地域のスポーツ人材の協力による運動部活動への支援、総合型地域スポーツクラブと運動部活動との連携）</p> <p>4- (2) 保護者に対する啓発の強化</p> <p>①保育所・幼稚園等における保護者対象の基本的な生活習慣に関する学習会等の取組の実施 ②スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーの配置拡充による生活環境の改善に向けた相談支援体制の充実 ③健康教育の充実に向けた副読本の活用</p> <p>4- (3) 欠食がみられる子どもへの支援</p> <p>①スクールカウンセラー等と連携した家庭状況等の把握、要保護児童対策地域協議会等との情報共有・連携による課題解決に向けた取組の実施 ②地域のボランティア等による食事提供活動への支援</p>
<p style="text-align: center;">就学前の</p> <p>課題・対策</p>	<p>子どもに向き合う余裕のない保護者や子育てに不安や悩みを抱える保護者が多い</p> <p>家庭の生活困窮等により、教育・保育環境が厳しい子どもたちが存在している</p> <p>保護者の生活習慣の乱れが子どもの基本的な生活習慣の未定着につながっている場合が多い</p>	<p>5- (1) 保育者の親育ち支援力の強化</p> <p>①保育所・幼稚園等による組織的な親育ち支援 ②保育者の親育ち支援力向上のための研修の充実 ③近隣市町村のネットワークの構築（各市町村の親育ち支援の中核となる保育者育成）</p> <p>5- (2) 保護者の子育て力向上のための支援の充実</p> <p>①子育て力の向上に向けた講話やワークショップ等の実施 ②保育所・幼稚園等における加配保育士等による個別支援の充実、行事への参加を促す取組の推進【再掲】 ③保育所・幼稚園等における保護者対象の基本的な生活習慣に関する学習会等の取組の実施【再掲】</p> <p>5- (3) 保育所・幼稚園等と家庭や地域等との連携の充実</p> <p>①親育ち・特別支援保育コーディネーターや家庭支援加配保育士の配置の拡充 ②家庭的保育事業を中心とした多機能型保育事業所の設置</p>

基本方向3

就学前の子どもたちの教育・保育環境の整備を進め「生きる力」の基礎をつくる

課 題	対 策
<p>保育所保育指針・幼稚園教育要領等を踏まえた保育所・幼稚園等で実践する教育・保育の具体的な指導方法が明確にされていない</p> <p>就学前と小学校の教育の違いが教員や保育者に十分に認識されておらず、小1プロブレムが発生している</p> <p>発達障害等の特別な支援が必要な乳幼児の増加や障害の多様化により、専門的な教育・保育が求められている</p>	<p>(1) 保育所保育指針・幼稚園教育要領等に沿った指導方法の確立</p> <ul style="list-style-type: none"> ①保育所保育指針等を踏まえ具体的な指導方法等を明確化したガイドラインの策定 ②策定したガイドラインの周知と活用の促進 <p>(2) 保育所・幼稚園等での組織力・実践力の向上に向けた組織マネジメント力の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ①ガイドラインに基づいた教育・保育の実践に向けた訪問指導・助言等の充実 ②園内研修等への支援の充実、中核となる保育者の育成等に向けた地域別研修会の開催 <p>(3) 保育者のキャリアステージにあった資質・指導力の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ①職責に応じた専門性・実践力の向上に向けた研修の充実 ②研修参加を促すための代替保育者の確保への支援 <p>(4) 保幼小の円滑な接続の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ①市町村における保幼小接続カリキュラムの作成に向けた支援の実施 ②各市町村の実態に即した保幼小連携についての研修への支援の充実 <p>(5) 発達障害等のある子どもへの専門的な指導・支援の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ①保育者の指導力の向上に向けた研修の充実 ②個別の指導計画を活用した組織的な指導・支援の充実 ③保幼小間での発達障害等のある乳幼児への指導・支援の引き継ぎの徹底

基本方向4

県と市町村教育委員会との連携・協働の充実・強化

課 題	対 策
<p>教育現場を支える県と市町村の教育行政が課題を共有し方向性を合わせて取り組むことが求められている</p>	<p>(1) 県と市町村教育委員会との連携・協働の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ①県教育委員会と市町村教育委員会との情報共有・協議の機会の充実 ②教育版「地域アクションプラン」による市町村の自主的・主体的な取組への支援 <p>(2) 教育的風土の醸成に向けた取組の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ①高知県教育の日「志・とさ学びの日」を通じた連携・協働の取組のさらなる推進（県と市町村の連携行事の実施等）

課 題	対 策
<p>南海トラフ地震の発生により大きな被害が予想されている</p> <p>児童生徒数の減少に伴い、学校の活力の低下が懸念される</p> <p>障害の重度・重複化等が進み、特別支援学校の教育的ニーズが多様化している</p> <p>各校種間の接続部分で円滑な接続ができておらず、小1プロブレムや中1ギャップ等の問題が発生している</p> <p>社会・経済のあらゆる分野で急速に進展している情報化への対応が求められている</p>	<p>(1) 南海トラフ地震等の災害に備えた取組の推進</p> <p>①学校施設等の耐震化等の促進 ②命を守り抜く防災教育の推進</p> <p>(2) 教育の質の維持・向上を図る視点に立った学校の再編の推進</p> <p>①県立高等学校再編振興計画の着実な推進 ②病弱特別支援学校の再編の推進</p> <p>(3) 校種間の連携・協働の推進</p> <p>①保幼小連携についての研修の実施、保幼小接続カリキュラムの作成への支援・実践に向けた研修会の開催【再掲】 ②児童生徒の情報共有や支援の引き継ぎに向けた小・中学校間の連携の強化【再掲】 ③配慮が必要な児童生徒への支援をつなぐ小・中学校合同の支援会議等の実施【再掲】 ④引き継ぎシートを活用した保幼小中高間での引き継ぎの充実・強化【再掲】 ⑤各市町村が実施する校種間連携の取組への人的・財政的な支援 ⑥校種間の人事交流の推進</p> <p>(4) 教育の情報化の推進</p> <p>①初任者全員を対象とした授業におけるICT活用、情報モラル等に関する研修の実施 ②県立高等学校における校務支援システムの整備・運用 ③県立学校の校内LAN、基幹情報システムの再構築</p>

課 題	対 策
<p>少子化に伴う生徒数の減少など私立学校の経営環境は、全体として厳しい状況が続いている</p> <p>社会の変化に応じた教育の改革や多様な教育課題への対応が必要となっている</p> <p>経済的に厳しい家庭の児童生徒が増えている</p>	<p>(1) 教育環境の維持・向上に向けた支援</p> <p>①私立学校の運営費に対する助成 ②教育力強化推進の取組に対する助成 ③耐震化や学校施設の整備に対する助成</p> <p>(2) 私立学校に通う児童生徒の保護者の経済的負担の軽減</p> <p>①高等学校等就学支援金・高等学校等奨学給付金の支給 ②授業料軽減措置を行う学校への助成</p>

課 題	対 策
<p>地方では、高等教育機関が有する知的資源の活用など知の集積が極めて重要であり、新たなビジネスの創出や地域課題の解決などに対する期待が大きい</p> <p>生涯を通して社会で活躍していくためには、社会に出た後も学び続けることが重要であり、大学は全世代のための学びの場への転換が求められている</p> <p>若者の県外流出は、大学進学時と卒業後の最初の就職時において顕著となっており、人口流出防止の観点からも、大学が果たす役割は大きい</p>	<p>(1) 地方創生の核となる大学づくりの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ①産学官民連携によるイノベーションの創出 ②地域住民、NPO、行政との連携による地域の活性化や課題解決に貢献する人材の育成 <p>(2) 「学び続ける」社会の実現に向けた学び直しの機能の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ①大学における生涯学習・社会人教育機能の充実・強化 ②産学官民連携によるビジネス研修「土佐まるごとビジネスアカデミー(土佐MBA)」の充実・強化 <p>(3) 若者の県内定着の促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ①県内高校から県内大学への進学者増に向けた取組の推進 ②県内大学卒業者に対する県内就職支援の充実

課 題	対 策
<p>社会教育を担う団体や人材の基盤が弱ってきている</p> <p>県全体として生涯学習を推進するための体制が十分整っていない</p> <p>県が抱える課題の解決に向けた学びのさらなる充実が必要となっている</p>	<p>(1) 生涯学習の推進体制の再構築</p> <ul style="list-style-type: none"> ①社会教育関係者の資質・能力の向上に向けた研修の充実、社会教育主事の養成、社会教育団体の活動への支援の充実 ②生涯学習に関する総合的な広報の充実、生涯学習機関のネットワーク化の推進 <p>(2) 新図書館等複合施設を核とした県民の読書環境・情報環境の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ①開館に向けたサービスの充実・強化（サービスの一部先行実施、司書の専門性向上のための研修の充実） ②図書館の提供するサービスの周知、市町村立図書館等への支援の充実（協力貸出、研修の実施） ③高知県子ども読書活動推進計画及び図書館振興計画の策定・実施 <p>(3) 子どもも大人も学び合う地域づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ①学校支援地域本部による体験活動の支援や登下校の見守り等の充実 ②県立青少年教育施設等における子どもの体験活動の充実 ③自然体験や社会体験を行う取組への支援 ④自然体験や環境学習を推進する指導者の養成・派遣 <p>(4) 「学び続ける」社会の実現に向けた学び直しの機能の強化【再掲】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①大学における生涯学習・社会人教育機能の充実・強化【再掲】 ②産学官民連携によるビジネス研修「土佐まるごとビジネスアカデミー(土佐MBA)」の充実・強化【再掲】

	課 題	対 策
文化・芸術の 振興	<p>県民の暮らしや生活の中に文化・芸術を深く根付かせることが必要</p> <p>県民自らが文化・芸術活動に主体的に参加できる環境づくりが必要</p> <p>地域の活性化に文化・芸術を活用することが重要</p>	<p>1－（１）県民一人一人が文化・芸術に親しむ環境づくりの推進</p> <p>①県立文化施設による文化・芸術に親しむ機会の提供やアウトリーチ活動等の実施</p> <p>②県立文化施設の整備とリニューアルの推進</p> <p>③学校と連携した文化・芸術活動の推進</p> <p>1－（２）文化・芸術等を活用した地域活性化の推進</p> <p>①高知県芸術祭や民間団体が行う芸術活動への支援の推進</p> <p>②県文化広報誌による地域文化等の発信</p>
文化財の保存 と活用	<p>文化財の価値を維持・拡大し、後世に伝えるための対応が十分ではない</p>	<p>2－（１）高知城の保存管理と整備の推進</p> <p>①適切な維持修繕の実施</p> <p>②高知城を訪れる方々の満足度の向上を図るための景観対策等の実施</p> <p>③高知城歴史博物館等との連携の推進、重要文化財建造物調査の実施</p> <p>2－（２）文化財の保存と活用の推進</p> <p>①国指定・県指定の有形・無形文化財の保存と活用</p> <p>②文化財建造物に関する専門的知識を身に付けた人材の育成</p> <p>③文化財の保存や価値の理解を促進するための計画的な調査、文化財指定等の実施</p> <p>2－（３）埋蔵文化財の発掘調査・保護の推進</p> <p>①埋蔵文化財の発掘調査の円滑な実施</p> <p>②埋蔵文化財の適切な保存と活用</p>

	課 題	対 策
<p>子どもの運動・スポーツ活動の充実</p>	<p>運動習慣が十分定着していない</p> <p>中学生の体力・運動能力が全国平均を下回っている</p> <p>子どもたちの競技人口が減少している</p> <p>中・高等学校の運動部活動加入率が減少している</p> <p>中山間地域などでは実施できる競技種目が限定される場合がある</p>	<p>1- (1) 幼児期の遊びを通じた運動機会の充実</p> <p>① 保育所・幼稚園等への運動遊びの指導者の派遣、親子で参加できる運動遊び教室の実施</p> <p>1- (2) 学校の体育授業及び体育的活動の充実</p> <p>① 小学校における体育授業の質の向上に向けた副読本や動画等の教材の充実・活用の徹底【再掲】</p> <p>② 退職校長等の派遣による体力・健康に課題がある学校への支援の充実【再掲】</p> <p>1- (3) 教員やジュニアスポーツ指導者の指導力の向上</p> <p>① コーチに必要な資質・能力の向上のための研修の実施【再掲】</p> <p>1- (4) 運動部活動の充実</p> <p>① 専門的指導ができる外部の指導者、スポーツトレーナー等の派遣拡充【再掲】</p> <p>② コーチに必要な資質・能力の向上のための研修の実施【再掲】</p> <p>③ 県外の優秀な指導者を招へいする取組の拡充【再掲】</p> <p>④ 中山間対策や指導者の資質向上等の課題解決に向けた研究及び対策の実施【再掲】</p> <p>1- (5) 子どもたちの多様な運動・スポーツ機会の提供</p> <p>① 地域のスポーツ課題の解決に向けた体制の構築（複数市町村・総合型地域スポーツクラブ等による検討会の設置、取組の推進）</p>
<p>競技力の向上</p>	<p>優秀なジュニア選手を発掘し、一貫した指導を行う体制が構築されていない</p> <p>トップ選手をレベルアップする体制が構築されていない</p> <p>全国トップレベルの指導実績のある指導者が少ない</p> <p>体力測定データやスポーツ医・科学等の専門的な知見が指導現場で十分に活用されていない</p> <p>スポーツ医・科学をサポートする体制が十分でない</p>	<p>2- (1) ジュニアから一貫した指導體制の確立</p> <p>① 各競技団体における一貫指導のためのプログラム作成、プロジェクトチームによる各団体の取組への評価・助言</p> <p>2- (2) 優秀な選手の発掘・育成及び効果的な種目変更ができるシステムの構築</p> <p>① 選手の発掘・育成のためのプログラムの普及、競技種目の変更につながる体制づくり</p> <p>2- (3) トップ選手の重点的な強化及び成果等評価</p> <p>① 県内トップ選手の活動充実に向けた経費面の支援、中央競技団体と連携した選手の育成・強化</p> <p>2- (4) 指導者の資質向上と優秀な指導者の招へい・受入れ</p> <p>① コーチに必要な資質・能力の向上のための研修の実施【再掲】</p> <p>② 県外の優秀な指導者の招へい、日本代表チーム・海外チームの招へい等の取組の推進</p> <p>2- (5) スポーツ医・科学の効果的な活用</p> <p>① スポーツ医・科学の活用事例を周知する研修会等の実施 ② スポーツトレーナーの養成</p> <p>③ スポーツ医・科学面からのサポートの充実に向けた環境整備の推進</p> <p>2- (6) 運動部活動の充実【再掲】</p> <p>① 専門的指導ができる外部の指導者、スポーツトレーナー等の派遣拡充</p> <p>② コーチに必要な資質・能力の向上のための研修の実施 ③ 県外の優秀な指導者を招へいする取組の拡充</p> <p>④ 中山間対策や指導者の資質向上等の課題解決に向けた研究及び対策の実施</p> <p>2- (7) 多様な競技スポーツ活動の充実</p> <p>① 地域のスポーツ課題の解決に向けた体制の構築（複数市町村・総合型地域スポーツクラブ等による検討会の設置、取組の推進）</p>

	課 題	対 策
<p>地域における運動・スポーツ活動の活性化</p>	<p>成人の運動習慣が十分に定着していない</p> <p>中山間地域や過疎地域ではスポーツ活動が制限されている場合がある</p> <p>スポーツを通じた地域活性化につながる取組が少ない</p> <p>スポーツ活動を支えるボランティアを育成する体制が十分でない</p>	<p>3- (1) 地域の実情に応じた効果的・継続的な取組の展開</p> <p>①地域のスポーツ課題の解決に向けた体制の構築（複数市町村・総合型地域スポーツクラブ等による検討会の設置、取組の推進）【再掲】</p> <p>3- (2) 女性がスポーツに参加しやすい環境づくり</p> <p>①女性限定のスポーツ大会の実施、母親が参加しやすい大会運営等の工夫</p> <p>3- (3) 地域のスポーツ活動の活性化に向けた公共施設の有効利用</p> <p>①学校体育施設の開放促進、市町村との連携による公共施設の運営形態の改善</p> <p>3- (4) スポーツの魅力や価値を認識することができる機会の提供</p> <p>①官民協働による2020年オリンピック・パラリンピック東京大会の事前合宿招致活動の推進</p> <p>②小・中・高等学校における啓発授業の実施、サミットの開催</p>
<p>障害者スポーツの充実</p>	<p>障害者スポーツを取りまとめる組織体制が十分でない</p> <p>特別支援学校・学級の体育的活動を一層充実する体制が十分でない</p> <p>障害者の多様なスポーツ活動を行う環境が十分に整っていない</p>	<p>4- (1) 障害者スポーツを取りまとめる組織体制の充実</p> <p>①障害者スポーツ関係者の連携強化による障害者のスポーツ活動機会の充実、組織体制の整備</p> <p>4- (2) 特別支援学校・学級における運動・スポーツ活動の充実</p> <p>①特別支援学校関係者による検討会の設置、効果的な対策の推進</p> <p>4- (3) 障害者スポーツ指導者の育成</p> <p>①コーチに必要な資質・能力の向上のための研修会の実施</p> <p>4- (4) 障害者スポーツのトップ選手の重点強化</p> <p>①県内トップ選手の活動充実に向けた経費面の支援、中央競技団体と連携した選手の育成・強化</p> <p>4- (5) 身近な地域におけるスポーツ参加機会の提供</p> <p>①スポーツ関係者や障害福祉関係者の連携による検討会議の開催、スポーツ教室・ボランティア研修会等の開催</p>
<p>スポーツ施設・設備の充実</p>	<p>地域や競技の拠点となる施設が十分整備されていない</p> <p>スポーツ活動をサポートするための施設・設備が十分整っていない</p>	<p>5- (1) 拠点となるスポーツ施設の整備</p> <p>①競技の拠点となる施設の計画的な整備の推進</p> <p>5- (2) スポーツ活動をサポートするための施設・設備の整備</p> <p>①県立施設等におけるトレーニング機器やスポーツ医・科学面のサポート体制の充実</p> <p>5- (3) 地域のスポーツ施設の整備</p> <p>①地域の拠点となる施設の計画的な整備の推進</p>